



平成 27 年 6 月 18 日

各 位

会 社 名 日本精密株式会社  
(JASDAQ コード番号 : 7771)  
代表者名 代表取締役社長 岡林 博  
問合せ先 上席執行役員 朴 成鎮  
(TEL (048)225-5311)

### 第三者割当による新株式の発行に関する資金使途および 支出時期変更のお知らせ

当社は、平成 26 年 11 月 5 日付「第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ」にて開示いたしました「調達する資金の具体的な使途」および支出予定時期について、下記のとおり変更することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### 1. 変更の理由

当社は、平成 26 年 11 月 5 日付「第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ」にて開示いたしましたとおり、第三者割当増資による新株式発行により、カンボジア工場の生産能力増強に向けた設備投資及びベトナム工場の工場移転拡張に伴う設備投資、また売上増に伴う運転資金の増加に対応するため資金調達を行い、平成 26 年 11 月より実施してまいりました。

しかしながら、カンボジア工場につきましては、販売好調な取引先からの受注内容が当初見込みより変化いたしました。具体的には、時計関連製品において絞りベゼルよりも、より付加価値の高い鍛造ベゼルへの需要が増加したため、平成 27 年 2 月～平成 27 年 5 月に予定しておりました 200T プレス 12 台の設備投資を平成 27 年 7 月に CNC 旋盤中古 8 台の設備投資に変更することといたしました。また、真空焼入炉に関しましては研磨の立ち上げを優先しプレス立ち上げ時期をずらしたため、設備投資時期を平成 27 年 2 月から平成 27 年 11 月に変更することといたしました。

ベトナム工場につきましては、平成 27 年 2 月～平成 27 年 5 月に予定しておりました CNC 旋盤 20 台の設備投資を受注状況から分析した結果、能力的に問題無いと判断し 16 台として、現状のマシニングセンター 1 台の老朽化による稼働率低下のため平成 27 年 12 月にマシニングセンター 1 台の設備投資に変更することといたしました。また、放電加工機 2 台、ワイヤーカット機 4 台に関しましては、増産に対して新規モデルではなく現流品が多くなったため金型製作設備を先送りしましたので設備投資時期を平成 27 年 5 月から平成 27 年 11 月～平成 27 年 12 月に変更することといたしました。なお、ロボドリル小型マシニング 5 台及び上記の CNC 旋盤 16 台につきまし

ては、当初の支出予定時期に設備投資を実施済みであります。

## 2. 変更の内容

変更箇所には下線を付しております。

### 【変更前】

#### (2) 調達する資金の具体的な使途

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
カンボジア工場の生産能力増強に向けた設備投資資金	33	平成 27 年 2 月～平成 27 年 5 月
ベトナム工場の工場移転拡張に伴う設備投資資金	158	平成 27 年 2 月～平成 27 年 5 月
売上増に伴う運転資金	106	平成 26 年 11 月～平成 27 年 3 月

調達資金を実際に支出するまでは、銀行口座にて管理いたします。

上記「2. 募集の目的及び理由」に記載しましたとおり、当社は今後のさらなる成長を目指し、ASEANプロジェクトを策定いたしました。カンボジアに新工場を建設し、既存ベトナム工場とのシナジー創出によるさらなる生産体制の拡充を図るとともに、同地域において一大サプライチェーン構築までを視野に入れたものです。また、ASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化により事業を拡大していくものであります。

ASEANプロジェクトのフェーズ2では、カンボジア工場の敷地内へ中国内の当社協力工場の誘致を計画しております。中国内での人件費高騰、慢性的労働者不足等による中国系メーカーの廃業、撤退等の変化を踏まえ、中国内の当社協力工場のカンボジア工場敷地内への移転誘致を進めております。

中国での増産対応が取れない販売の好調な取引先から、高価格帯向け製品の増産要望があり、ベトナム工場の低価格帯向け製品から中価格帯向け製品に至るまでの生産のカンボジア工場への移管を早めなければならず、同時に設備投資の前倒しが必要となってきております。そこで、当初計画では2016年3月期中に予定しておりました設備投資を取引先からの増産要望に応えるため、2015年2月～2015年5月に向けて前倒しして、カンボジア工場の生産能力増強に伴う設備投資費用として2015年2月に25百万円(真空焼入炉(1台)、200Tプレス(6台))及び2015年5月に8百万円(200Tプレス(6台))を充当する予定であります。

ASEANプロジェクトのフェーズ2では、ベトナム工場の移転拡張による高付加価値製品の増産と、表面処理能力の増強を計画しております。ASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化に向けて、第2工場の老朽化により一部の設備を移転させるため新工場を建設いたしました。

販売の好調な取引先から、高価格帯向け製品の増産要望があり、ベトナム工場での低価格帯向け製品から中価格帯向け製品に至るまでの生産をカンボジア工場へ早く移管し、高価格帯向け製品の生産を行うための設備が早急に必要となっております。そこで、当初計画では2016年3月期中に予定しておりました設備投資を取引先からの増産要望に応えるため、2015年2月～2015年5月に向けて前倒しして、工場の自動化・半自動化に向けた設備投資資金として2015年2月に70百万円(ロボドリル小型マシニング(5台)、CNC旋盤(10台))及び2015年5月に88百万円(CNC旋盤(10台)、放電加工機(2台)、ワイヤーカット(4台))を充当する予定であります。

今後は工場を拡張してイオンプレーティング処理設備等も移転し、高価格帯向け製品の製造に必要な表面処理工場とする計画であります。

販売の好調な取引先からの急な増産要望に伴って調達すべき原材料及び仕掛品が

増加することや、カンボジア工場を中心に工場人員の増強を図る必要があるなどの売上増加に伴う運転資金に 106 百万円を充当する予定であります。

【変更後】

(2) 調達する資金の具体的な使途

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
カンボジア工場の生産能力増強に向けた設備投資資金	33	平成 27 年 7 月～平成 27 年 11 月
ベトナム工場の工場移転拡張に伴う設備投資資金	158	平成 27 年 2 月～平成 27 年 12 月
売上増に伴う運転資金	106	平成 26 年 11 月～平成 27 年 3 月

調達資金を実際に支出するまでは、銀行口座にて管理いたします。

上記「2. 募集の目的及び理由」に記載しましたとおり、当社は今後のさらなる成長を目指し、ASEANプロジェクトを策定いたしました。カンボジアに新工場を建設し、既存ベトナム工場とのシナジー創出によるさらなる生産体制の拡充を図るとともに、同地域において一大サプライチェーン構築までを視野に入れたものです。また、ASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化により事業を拡大していくものであります。

ASEANプロジェクトのフェーズ2では、カンボジア工場の敷地内へ中国内の当社協力工場の誘致を計画しております。中国内での人件費高騰、慢性的労働者不足等による中国系メーカーの廃業、撤退等の変化を踏まえ、中国内の当社協力工場のカンボジア工場敷地内への移転誘致を進めております。

中国での増産対応が取れない販売の好調な取引先から、高価格帯向け製品の増産要望があり、ベトナム工場の低価格帯向け製品から中価格帯向け製品に至るまでの生産のカンボジア工場への移管を早めなければならず、同時に設備投資の前倒しが必要となってきております。そこで、当初計画では2016年3月期中に予定しておりました設備投資を取引先からの増産要望に応えるため、2015年7月～2015年11月に向けて、カンボジア工場の生産能力増強に伴う設備投資費用として2015年7月に16百万円(CNC旋盤中古8台)及び2015年11月に17百万円(真空焼入炉)を充当する予定であります。

ASEANプロジェクトのフェーズ2では、ベトナム工場の移転拡張による高付加価値製品の増産と、表面処理能力の増強を計画しております。ASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化に向けて、第2工場の老朽化により一部の設備を移転させるため新工場を建設いたしました。

販売の好調な取引先から、高価格帯向け製品の増産要望があり、ベトナム工場での低価格帯向け製品から中価格帯向け製品に至るまでの生産をカンボジア工場へ早く移管し、高価格帯向け製品の生産を行うための設備が早急に必要となっております。そこで、当初計画では2016年3月期中に予定しておりました設備投資を取引先からの増産要望に応えるため、2015年2月～2015年12月に向けて前倒しして、工場の自動化・半自動化に向けた設備投資資金として2015年2月に26百万円(CNC旋盤(6台))、2015年3月に27百万円(ロボドリル小型マシニング(5台))、2015年5月に43百万円(CNC旋盤(10台))、2015年11月～12月に62百万円(マシニングセンター(1台)、放電加工機(2台)、ワイヤーカット機(4台))を充当する予定であります。

今後は工場を拡張してイオンプレーティング処理設備等も移転し、高価格帯向け製品の製造に必要な表面処理工場とする計画であります。

販売の好調な取引先からの急な増産要望に伴って調達すべき原材料及び仕掛品が増加することや、カンボジア工場を中心に工場人員の増強を図る必要があるなどの

売上増加に伴う運転資金に 106 百万円を充当する予定であります。

### 3．今後の見通し

現在のところ、平成 27 年 5 月 15 日に発表いたしました平成 28 年 3 月期の業績予想に変更はありません。

以 上